



◇ 基本の使い方

普通小学校で学習する単一弱視の児童の国語で使用。

漢字を部首と他の組み合わせで覚え、自分で書けるようにする。

「『うまへん』は『馬』を細長く書く。」というような覚え方コメントを付け、頭の中で、言葉で整理して覚えられるようにする。

文字サイズ、線の太さ、使用する色等は、見え方に応じたものにする。

◇ 指導のねらい

視力や視野の面から漢字1文字を一度にとらえることが難しい児童が、「へん」「つくり」「かんむり」等に分けて覚え、その組み合わせで漢字の形を形成できるようにする。

1マスの使い方を意識させ、「へん」は左半分まで、「かんむり」は上3分の1までというように、大きさやバランスも覚えられるようにする。

◇ 指導の評価

教育相談で児童と保護者、在籍校の担任に提示した。

3年生になって、画数の多い漢字が増えてきたため、漢字をパーツごとに分けて覚える学習方法を取り入れるようにした。

「へん」だけで1マスのほとんどを使ってしまうようなことが少なくなり、左右のずれはあるものの、漢字の形を意識できるようになった。